



小児喘息の治療には適切な診断と管理を

喘息は気道の慢性炎症を特徴とし、発作性にかかる気道狭窄によって咳嗽、喘鳴、呼吸困難を繰り返す疾患です。小児喘息の有症率は日本では低下傾向にあり、長期管理薬の普及により入院数も減少傾向にあり、喘息死はほとんど見られなくなっていますが、依然不十分な管理により重症化することがあり、適切な診断・管理が必要です。

症状、アレルギー疾患の既往歴・家族歴を参考にアレルゲン感作の評価のため血液検査、肺機能検査などを組み合わせて喘息の診断や重症度の判定を行います。

治療には発作時の治療と症状発現予防のための長期管理薬を用いた治療があります、発作時には程度に応じて吸入、ステロイド投与などを行います、夜間に悪化することが多く、重症度が高いと判断した時はすぐに救急病院を受診してください。長期管理薬は気道炎症抑制効果があるステロイド吸入が基本で重症度に応じて管理を決めます、吸入は適切に行わなければ効果が得られないので病院ではしっかりと吸入指導を行います。また近年は重症例には抗IgE抗体などの生物的製剤も用いられます。また喫煙、ペット、ダニなどは喘息の悪化因子であり、環境整備も管理には必要です、さらにアレルギー性鼻炎などの他のアレルギー疾患の合併も悪化する要因となるので合わせて治療を行います。

喘息は低下傾向にあるものの有病率は依然として高く、重症化することも少なくなく適切な診断・管理が必要です、困ったことがあればいつでもかかりつけ医などへ相談してください。

JA 広島総合病院
小児科 二神 良治